

ゾーン30の導入による交通安全意識に関する研究

—小学生と保護者を対象として—

社会システム計画学研究室2014年度修士研究 片山紗緒里

研究背景

—生活道路に関する課題—

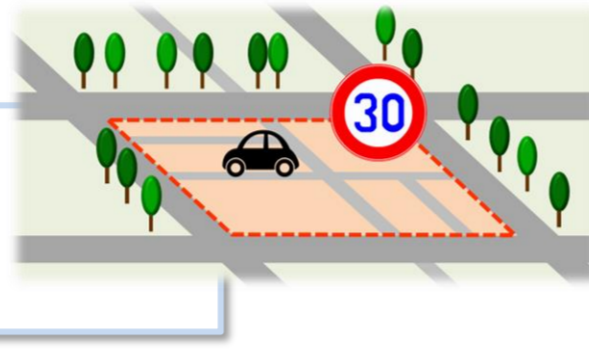
■全国の交通事故による死傷者数
年々減少傾向にあるが生活道路での減少割合は低い

課題①:生活道路への事故防止対策が求められている

面的な広がりやを考慮した地域全体での交通安全対策が必要とされ、近年ではゾーン30の導入が推進されている

区域(ゾーン)を定めて30km/hの速度規制を実施

必要に応じてその他の安全対策



ゾーン内における速度抑制や抜け道交通の抑制等を図る生活道路に対する対策

—子供に関する課題—

■子供に関する交通事故

登下校中の児童が自動車交通事故に巻き込まれることが多い
子供の多くは自宅周辺で事故に遭遇することが多い

生活道路や地域全体の安全を考える上で子供の安全の確保について配慮することは重要

■子供と大人の危険指摘箇所の違い

子供と大人では危険だと感じる箇所が違う

課題②:子供と大人の意識の違いを把握する必要がある

研究の目的

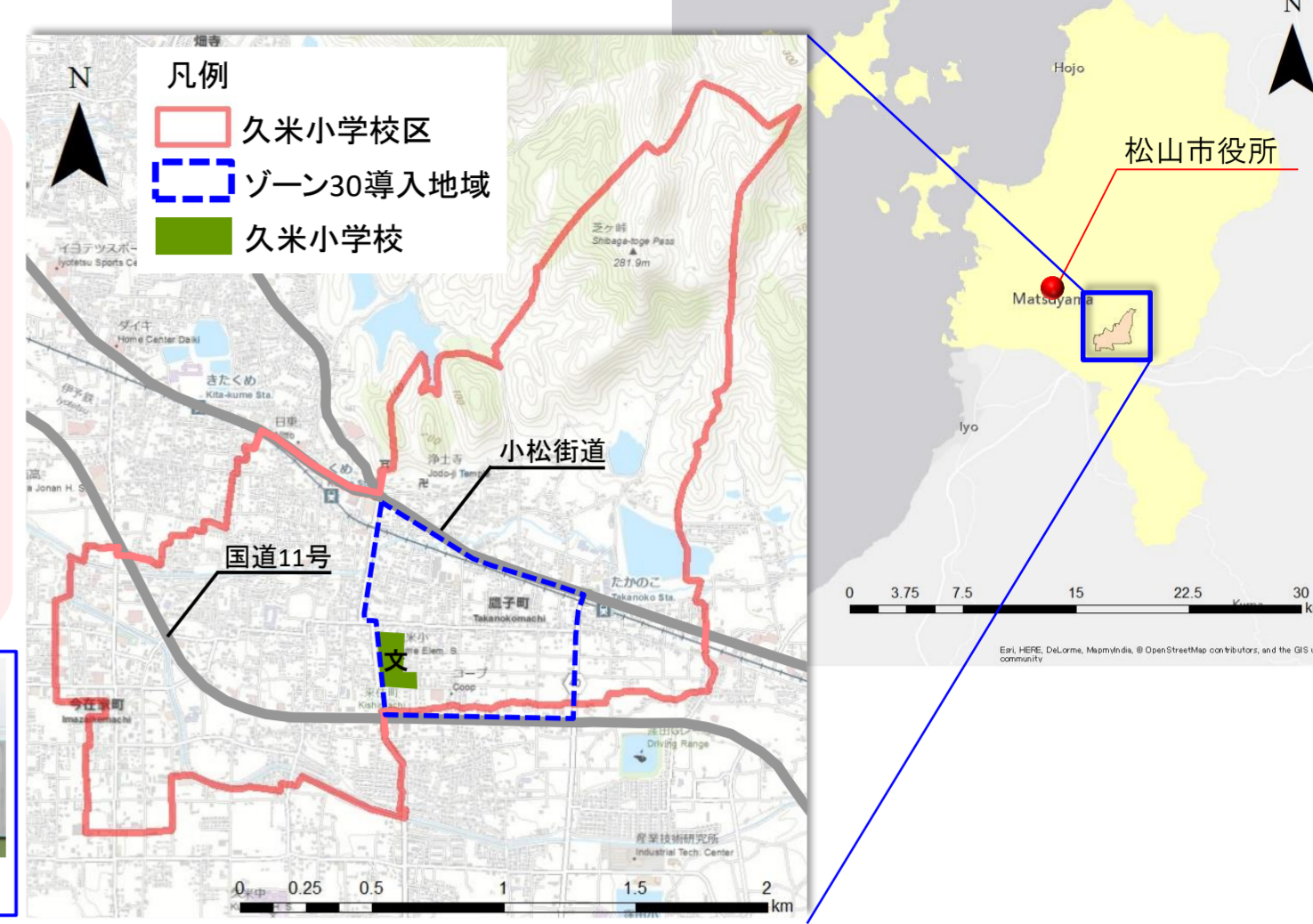
- ✓ ゾーン30の導入による交通実態や意識の変化について明らかにする
- ✓ 小学生と保護者のゾーン30に対する意識の違いを明らかにする

分析対象地域

■松山市久米地区■
松山市中心部より南東部に約5km
人口:約2万人
幹線道路が地区を北西から南東に横切っている

《交通安全に関する取組》

- ・登下校の子供の見守り活動、安全安心マップの作成など
- ・平成25年にゾーン30が地区の一部に導入された

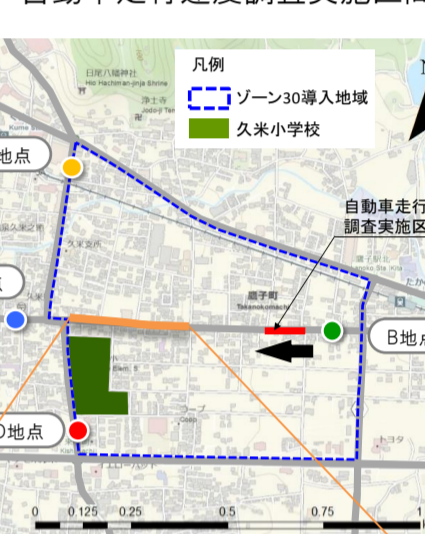


分析の流れ

■地域の自動車交通実態の把握

ゾーン30導入地域の交通実態把握に関する調査

ゾーン30導入地域の交通実態把握に関する調査	
調査日時:平成26年12月18日(木) 7:00~8:05(登校時間帯), 15:30~16:35(下校時間帯)	
①通り抜け自動車交通量調査	②自動車走行速度調査
調査地点:ゾーン30地域の主要な出入口4箇所(A~D地点)	調査地点:ゾーン30内でも比較的主要な道路
調査内容: ・ビデオ撮影によって自動車のナンバープレートと通過時刻を記録。 ・導入前に実施した平成21年の調査結果と照らし合わせる為、5分以内に地域を通過した自動車を通り抜け自動車とみなしてその台数を調査した	調査内容: ・スピードガンを用いて通り抜け自動車4地区内に用がある自動車の走行速度を測定 ・通り抜け自動車の判定は、通り抜け自動車交通量調査との紐付けによって特定した



■小学生と保護者の交通安全意識の把握

小学生とその保護者に対する交通安全に関するアンケート調査

調査名	小学生とその保護者に対する交通安全に関するアンケート調査	
調査対象	松山市久米小学校の4・5年生(261人)とその保護者(261人)	松山市久米小学校の5・6年生(268人)とその保護者(268人)
調査時期	平成25年7月中旬(導入前)	平成26年7月中旬(導入後)
調査方法	自記式アンケート	
配布数	522部 (小学生261部、保護者261部)	536部 (小学生268部、保護者268部)
回収数	488部 (小学生256部、保護者232部)	473部 (小学生234部、保護者239部)
回収率	93.5% (小学生98.1%、保護者88.9%)	88.2% (小学生87.3%、保護者89.2%)
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な道路に大切だと思う要素 ・対象の道路に対する安全意識 ・ゾーン30導入予定地域に対する安全意識 ・対象の道路に対する安全意識 ・ゾーン30導入地域に対する安全意識 ・ゾーン30による交通安全意識や自身の行動の変化 	

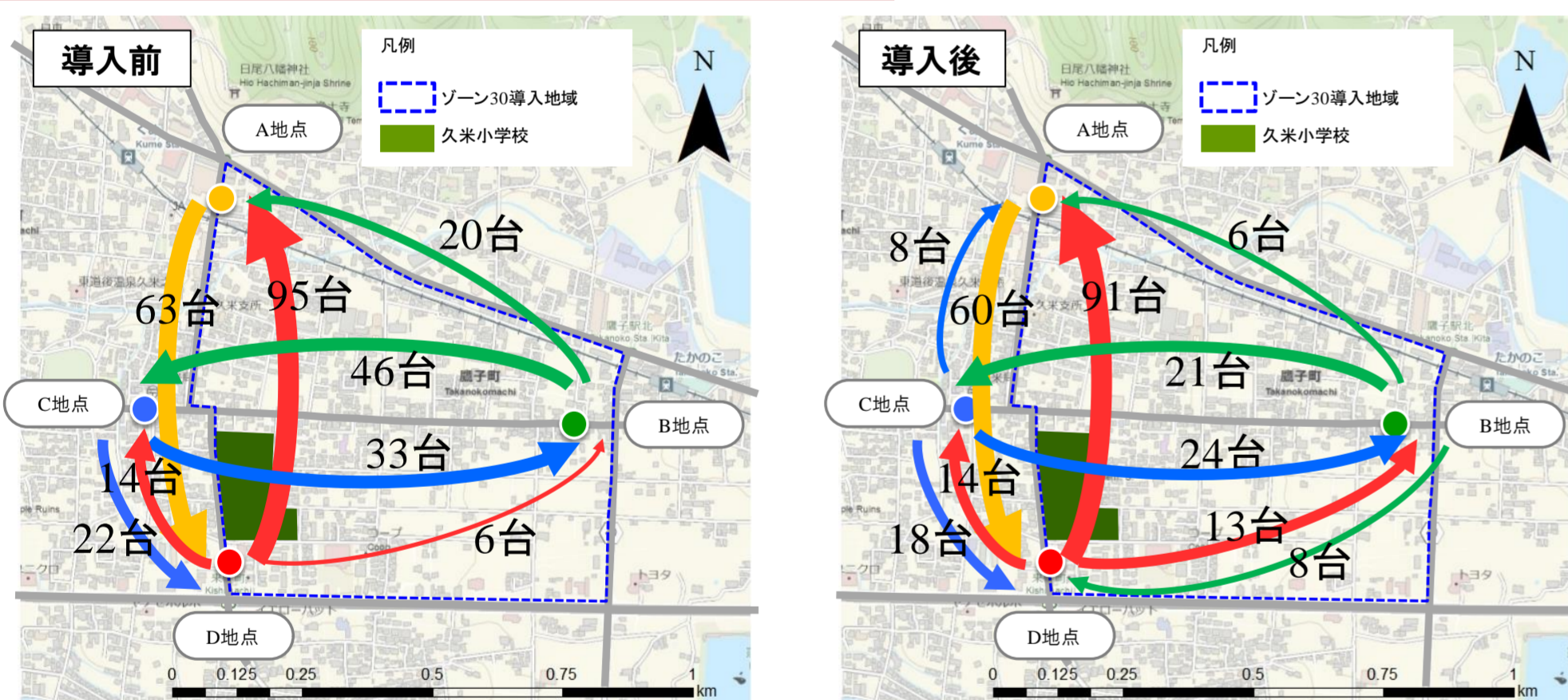


対象の道路の様子

分析結果

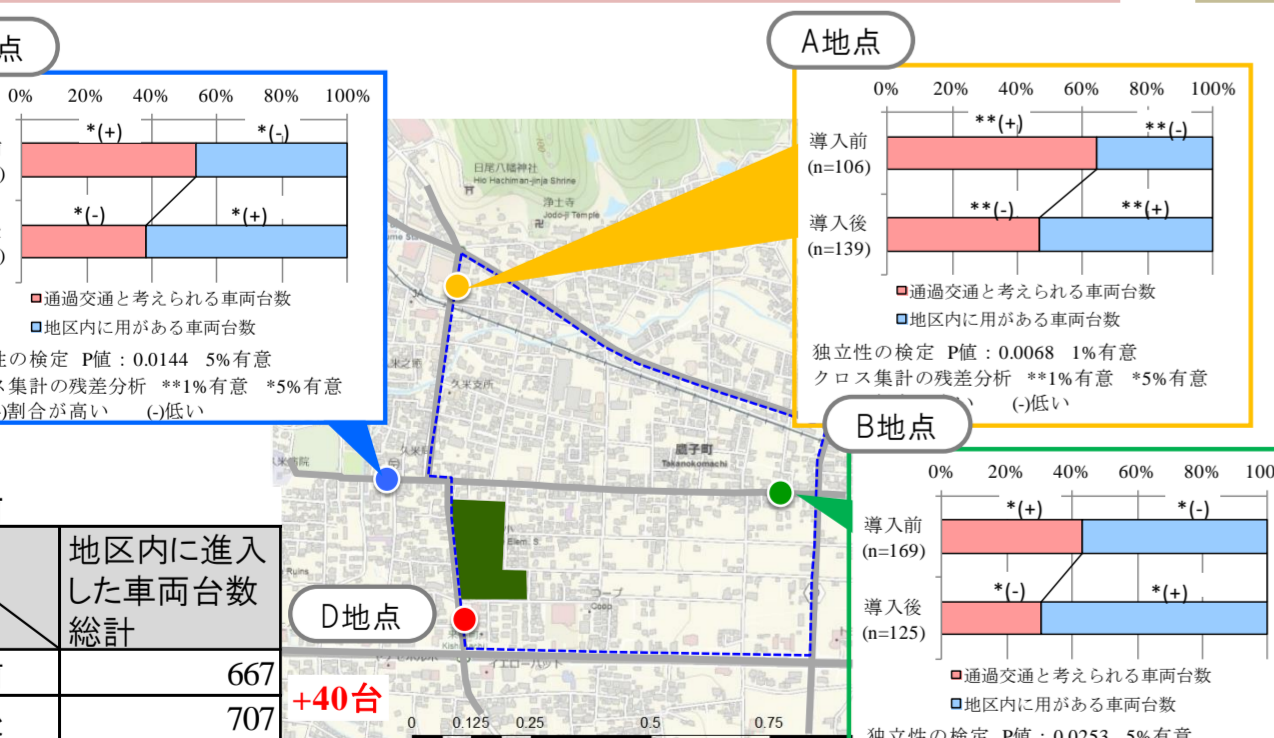
ゾーン30導入地域の交通実態

ゾーン30導入前後の通り抜け自動車交通量の比較(午前)



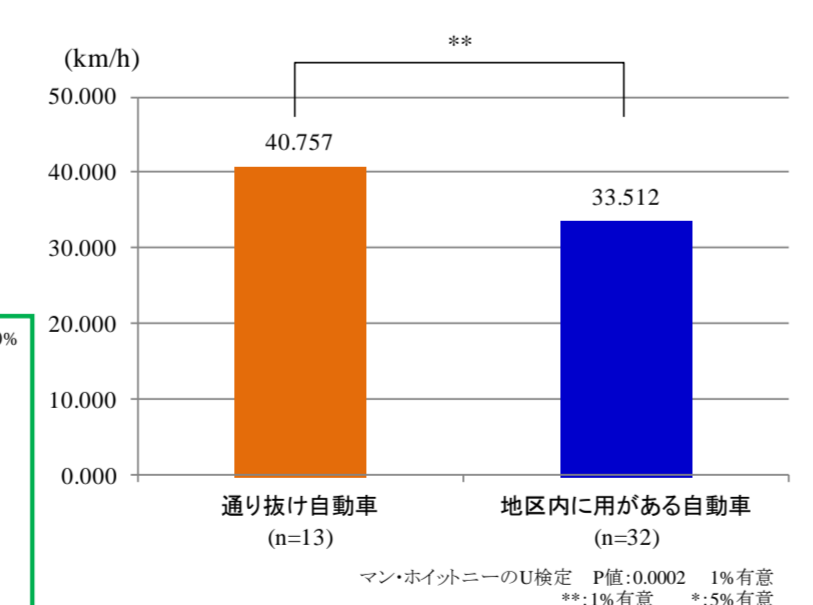
南北または東西に通り返ける自動車が多い
特に南北の幹線道路を行き交うような通り抜け交通が多くみられる
東西の出入口から南北の幹線道路へ通り返ける自動車も存在

各地点から地区内へ進入した通り抜け交通の割合(午前)



ゾーン30内の自動車走行速度比較

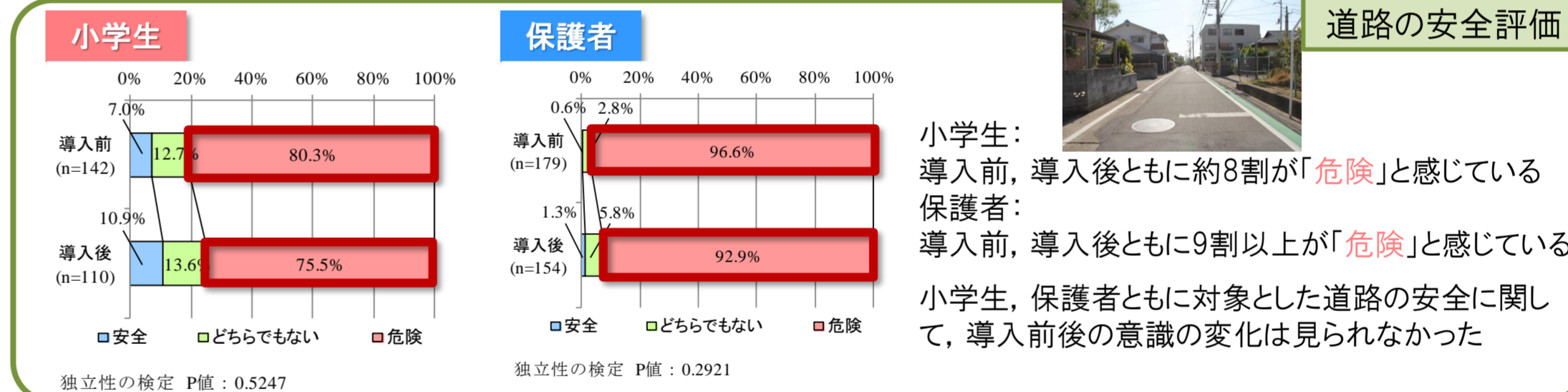
ゾーン30内を走行する通り抜け自動車と地区内に用のある自動車の速度比較



3地点において通り抜け交通量が減少した
しかし、全体の交通量をみると地区内へ進入した車両台数は増加

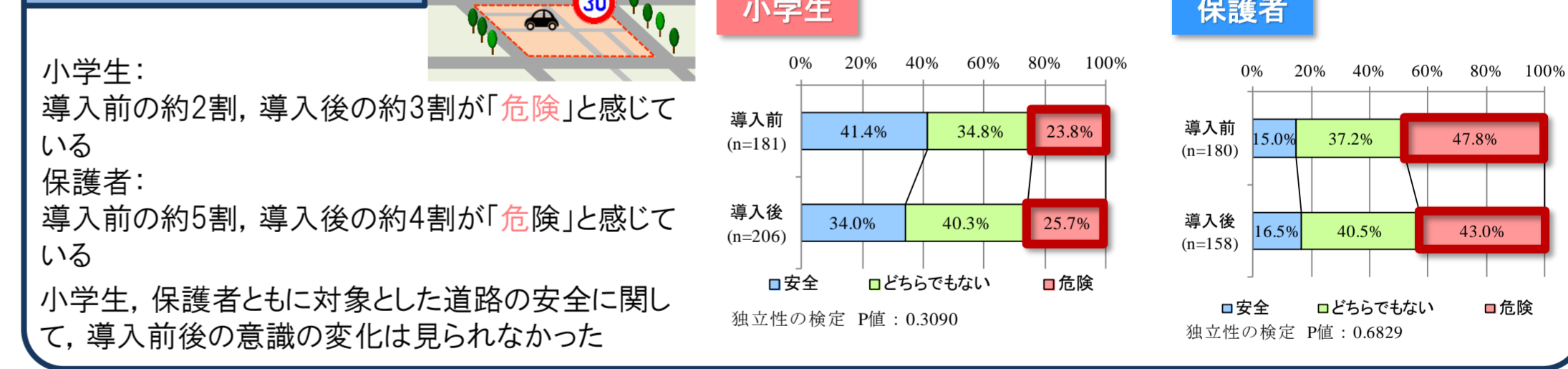
通り抜け自動車の方が地区内に用がある自動車よりもゾーン30内を走行する速度が速い

小学生と保護者の交通安全意識の把握

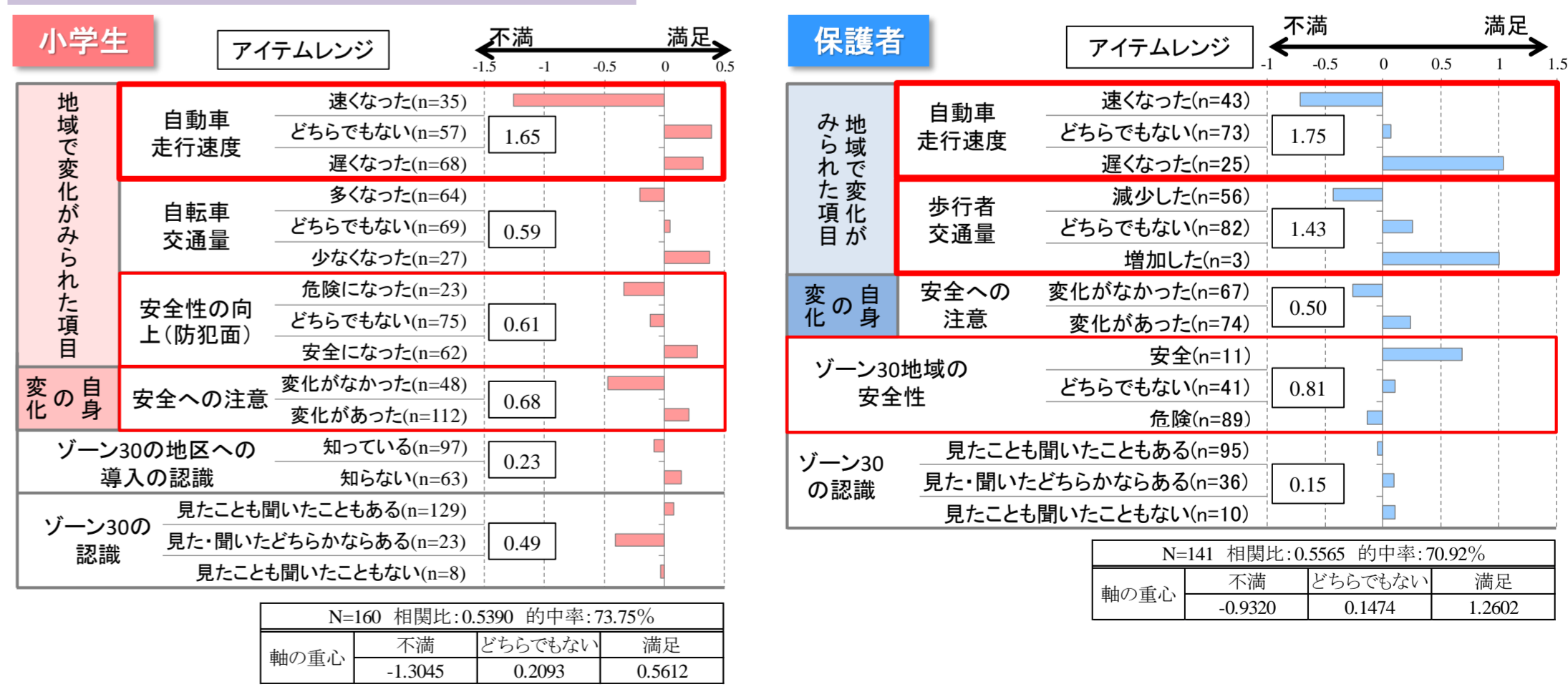


小学生:
導入前, 導入後ともに約8割が「危険」と感じている
保護者:
導入前, 導入後ともに9割以上が「危険」と感じている
小学生, 保護者ともに対象とした道路の安全に関して, 導入前後の意識の変化は見られなかった

ゾーン30地域の安全評価



ゾーン30の満足度に影響を与えるもの



結論

■地域の自動車交通実態

- ゾーン30導入前後で通り抜け交通量の減少が確認された
- ゾーン30内を走行する通り抜け自動車と地区内に用がある自動車では、速度に差がある
- しかし、ゾーン30内を走行する自動車の平均速度は30km/hを超える自動車がほとんどである

■小学生と保護者の交通安全意識

- ゾーン30内の道路や導入地域全体に対する安全の評価に導入前後での変化は見られなかった
- ゾーン30の満足度に影響を与える要因として、小学生・保護者ともに自動車の走行速度や交通安全視点で見たまちの安全が挙げられた
- 他にも、小学生は自転車や歩行者の交通量、保護者は歩行者の交通量・地域静穏性に関する要因が満足度に影響を及ぼすことが明らかとなった